

龍神祝詞

全文・ひらがな全文

天と地を結ぶ龍王神への祈り

龍神祝詞 全文

高天原に坐し坐して、天と地に御働きを現し給う龍王は、大宇宙根元の御祖の御使いにして、一切を産み、一切を育て、萬物を御支配あらせ給う王神なれば、

一二三四五六七八九十の十種の御寶を、己が姿と變じ給いて、自在自由に天界・地界・人界を治め給う龍王神なるを尊み敬いて、

眞の六根一筋に御仕え申すことの由を受け引き給いて、愚かなる心の数々を戒め給いて、一切衆生の罪穢れの衣を脱ぎ去らしめ給いて、

萬物の病災をも立所に祓い清め給い、萬世界も御祖のもとに治めせしめ給へと、祈願奉ることの由を聞こし食し、

六根の内に念じ申す大願を成就なさしめ給へと、恐み恐みも白す。

注：龍神祝詞には伝承・掲載資料による表記の違いがあります。本書では広く流布する本文をもとに、句読点と送り仮名を補って読みやすく整えています。

龍神祝詞 ひらがな全文

たかまがはらに ましまして、てんと ちに みはたらきを あらわし
たもう りゅうおうは、だいうちゅうこんげんの みおやの みつかいに
して、いっさいを うみ、いっさいを そだて、よろずのものを ごしは
い あらせたもう おうじんなれば、

ひふみよ いむなやことの とくさの みたからを、おのがすがたと へん
じたまいて、じざいじゅうに てんかい・ちかい・じんかいをおさめた
もう りゅうおうじんなるを とうとみ うやまいて、

まことの むね ひとすじに みつかえ もうすことの よしを うけひきたま
いて、おろかなる ころの かずかずを いましめたまいて、いっさい
しゅじょうの つみけがれの ころもを ぬぎさらしめたまいて、

よろずのものの やまいをも たちどころにはらいきよめたまい、よろ
ずせかいも みおやのもとにおさめせしめたまえと、こいねがいたて
まつることの よしを きこしめし、

むねの うちにねんじもうすたいがんを じょうじゅ なさしめたまえと、
かしこみ かしこみも もうす。

注：主な読み：一二三四五六七八九十＝ひふみよ いむなやこと／十種＝とくさ／六根＝むね。『高天原』
は『たかあまはら』、『萬物』は『ばんぶつ』と読む伝承もあります。